国語

4年　組分④

解　答

1　1 冷静　2 愛着　3 散らかす　4 商店街　5 希望
6 日焼け　7 察知　8 大差　9 帯びる　10 健康

2　問一　1 **完全**　2 **高名**　3 **進歩**　4 **相対**　5 **個人**　6 **目的**

問二　1 **オ**　2 **エ**　3 **イ**　4 **ア**

問三　1 **前代未聞・エ**　2 **一朝一夕・ア**　3 **以心伝心・ウ**（それぞれくんで）

3　問一　A **ウ**　B **エ**　C **ア**　問二 **ア**

問三　1 **擬態**　2 **毒針**　3 **フェロモン**（3つくんで）

問四　〔約〕**97万**〔種〕　問五 **イ・エ**（くんで不順可）

問六　1 Ⅰ **アブラムシ**　Ⅱ **薬ざい**　Ⅲ **天敵**　2 **化学農薬**

問七　1 **エ**

2 **植物の汁液を吸って成長をおくらせ、病気のウイルスを広げる感染源になること。**

問八　1 **エ**　2 **イ**　3 **ウ**（3つくんで）　問九 **3**〔段落〕　問十 **ウ**

4　問一　A **エ**　B **ア**　C **イ**　問二 **井上・由実（圭・由実）**（くんで不順可）

問三 **イ**　問四　1 **いやいや**　2 **きらわれて**　問五 **ア**　問六 **イ**

問七 **体の弱い者はなまいきな態度をとることがゆるされず、体の強い者だけがなまいきな態度をとってもよいということ。**

問八　〔三字〕**いやや**　〔十字〕**ありがとうっていえっ**

問九 **エ**　問十 **イ**　問十一 **ア**　問十二 **エ**

解　説

3　出典は、荒船良孝「近未来科学ファイル２０ＸＸ年③〈超人的テクノロジーの巻〉 空とぶ車でドライブへ!?」〈岩崎書店〉。

問一　A…逆接「しかし」。B…例示「たとえば」。C…並立「また」。

問二　「わがもの顔」とは「他人を気にせず自分勝手な」という意味です。

問三　4段落に昆虫の個性的な姿形や生活スタイルの具体例が書かれています。

問四　「これほどたくさんの」とあるので、「どれほどたくさんなのか」と考えながら文章をさかのぼりましょう。「人間が発見してきた生物」のうち「約97万種を占めるのが昆虫」（1・2行め）とあります。

問五　「このような」が指し示す6段落には、カブトムシやトノサマバッタの例が挙げられていました。

問六　1…「生物農薬」については、10段落でアブラムシを駆除するためのテントウムシを例に挙げ説明しています。2…「生物農薬」と対になるのは、薬ざいを利用して害虫を退治する「化学農薬」です。

問七　1…ここでの「代名詞」とは「特徴をよく表している、代表的なもの」という意味です。2…アブラムシが植物に与える害については、8段落で説明されています。一つは「植物の汁液を吸って、植物の成長をおくらせる」（26行め）こと。もう一つは「病気を引き起こすウイルスをいろいろな植物に広げてしまう感染源となる」（27行め）ことです。

問八　1…「化学農薬は畑にまくのに大きな労力がかかります」（29行め）とあるので、生物農薬は「労力があまりかからない」と考えられ、「農家」にとっての利点の一つといえます。2…「農薬といっても、

薬ざいを使うわけではないので、生産される野菜はより安全なものに」（32行め）なり、「消費者」は「より安全な」野菜を手に入れられると考えられます。3…「自然環境ににげるようなことがあっても、生態系に影響を与え」ない生物農薬は、「自然」に優しいと言うことができます。

問九　ぬいた文に「地球での生活は」「人間よりも、昆虫たちの方が大先輩」とあり、「つまり」と前の内容を言いかえる接続語からはじまっているので、「昆虫の方が地上に現れたのが古い」という内容が書かれている3段落の最後にもどすのが適当です。

問十　人間が発見してきた生物の半分以上が昆虫です→ア○。「昆虫は、姿形や生活スタイルがとても個性的」（11行め）→イ○。「昆虫の能力をうまく利用する技術が開発されるようになりました」（22行め）→エ○。「昆虫にはわたしたちとはくらべものにならないほどの能力をもっているものがたくさんいる」（15・16行め）→ウ×。

4　出典は、横山充男「ぼくらは春に」〈文研出版〉。

問一　A…「息をはいて」いる様子をあらわす「ふっと」。B…「前を見ている」様子をあらわす「じっと」。C…肩がふるえる様子をあらわす「びくっと」。

問二　辰男の家をたずねた「お客さん」は、主人公の「井上圭」（ぼく）と副班長の「由実」の二人です。

問三　辰男は「春子より、俊一のほうがたいへんやないか」（15・16行め）と言いましたが、「ぼくら」は辰男と反対のこと、つまり「俊一より春子のほうが遠足に連れて行くのは大変だ」と考えていたのです。

問四・五　辰男は、春子がぼくに「きらわれている」ことや、ぼくが「いやいや車いすおして」いて「そのいやいやをかくしてる」ことにも気づいているから遠足に行きたがらないのだと考えました。

問六　ぼくが「体が弱いくせして、ひとに命令ばっかりするだろ。車いすで運んでやっても、ありがとうもいわないんだぜ」（29〜31行め）と言ったあと、洋子が「うつむ」いてしまいました。洋子も足に障害があるのでぼくの発言に傷つき、それに気づいたぼくは「しまった」と後悔したのです。

問七　「そんなこと」とは、直前の辰男の「体の弱いやつがなまいきやったらあかんか。なまいきできるのんは、体の強いやつだけか」という発言を指しています。話し言葉や方言を使わずにまとめましょう。

問八　辰男は、ぼくと春子は「おんなじ学校の、おんなじクラスの」友だち、すなわち同じ立場にあるものなのだから、体が弱いからと遠慮せず、言いたいことをはっきり言うべきだと考えています。ぼくが言いたいのは車いすをおすのが「いや」だということと、「ありがとう」といってほしいということです。それぞれ辰男のセリフの中からぬき出しましょう。

問九　辰男に「おまえのあかんとこ」は「ええかっこしよる」ところだと批判されたぼくは、「いいかっこうしてるのは、おまえだ」と言い返したくなりました。素直に聞き入れられないのは「辰男のいい子ちゃんぶったいい方はきらい」（46・47行め）だと「反発」する気持ちがあるからです。

問十　春子を「体が弱いくせ」（29行め）に「なまいき」（26行め）だときらっているぼくに、辰男は、きらわれていることを知りながら、その人に手助けを頼まなければならない春子の気持ちを伝えます。

問十一　「体はほそく弱々しかった。そのくせつんとすまして」（77・78行め）という様子から、春子が強がっていることがわかります。

問十二　ぼくは春子に「おねがいしますぐらいいえよ」（85行め）、「ありがとうぐらいいえよ。運んでやったんだぜ」（112行め）と「今までいえなかった言葉」（86行め）を伝えます。ぼくが春子に対して不自然に気を遣うことをやめ、本心を言うようになったことから、春子自身も「ぼく」に心を開き、憎まれ口を冗談として言えるようになったのです。